

「財団法人南豫奨学会・奨学金支援会」 発足趣意書

皆様のますますのご健勝を心からお慶び申し上げます。

さて、当「財団法人南豫奨学会」は、戦前の財団法人伊達奨学会を継承し、昭和二十七年九月に発足以来、その事業の一つとして昭和二十八年六月、在京学寮「南豫明倫館」を再建、運営してまいりました。戦前の伊達明倫館から通算しますと実に百二十年、数千人に及ぶ南予青年の就学環境を提供してまいりましたことは、周知の通りです。

さらに、当会事業には、伊達奨学会時代と同様、学寮の他に「奨学金貸与制度」と「図書館」が含まれております。後者は未だに復活の機を得ず残念ですが、前者は幸いに、経済的困窮者で優秀な子弟を対象に、平成五年以来奨学金支援を復活してまいりました。

さて二一世紀に入ったとはいえ、わが国の環境は決して明るくとはいえず、政治、経済、社会いずれを見ましても、ますます混沌とした時代になりつつあります。このような時代にこそ、教育環境だけはよりきめ細かく整備する必要があるかと存じます。とくに、学寮「南豫明倫館」の維持運営はいうまでもなく、折角発足した「奨学金貸与制度」をより多くの該当青年に広げなければならぬと、念願する次第です。

ところが、昨今の経済環境は、奨学金の原資となる南豫奨学会基金果実（預金利息）を極端に圧迫し、ややもすると基金を取り崩さざるをえない重大事態に立ち至ってまいりました。これでは、僻地南予に生まれた一人でも多くの次代の青年に、十分な永続的奨学金支援など、困難であることはいうまでもありません。そこで、本制度を維持し、より充実するため、従来の蓄積基金のみに頼ることなく、たとえ僅かでもこれまで南豫明倫館を菓立った多くの諸兄はじめ、郷土の諸先輩のご支援を、継続的に賜りたいと存じ、「財団法人南豫奨学会・奨学金支援会」を発足させることといたしました。

たしかに経済環境の厳しい折からではありますがこのような

時代にこそ、皆様のご芳志にすがって先人の遺した偉業を、次代へ限りなく継承いたしたく存じております。

つきましては、別紙の「財団法人南豫奨学会・奨学金支援会」規約により運営いたしたく存じますので、何卒本趣意ご理解の上ご入会いただき、ご協力賜りますことをよろしくお願い申し上げます。

平成十五年十一月三日

発起人

財団法人南豫奨学会

奨学金支援会

会長

伊達 宗禮

副会長

松本 三郎

常任委員

八幡屋 正

同

福井 安春

同

今松光一郎

同

岡本 健

南豫明倫館

OB会

会長

井上 晴雄

同 松山支部

OB会

会長

水口永二郎

同 宇和島支部OB会

会長

上田 一介

奨学金支援会 賛同者会員有志 代表

木下 博民